

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、特記すべき事項はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間の世界経済を概観しますと、米国と欧州の経済が堅調に推移したことに加え、新興国の経済が緩やかに回復し、全体として持ち直し基調が継続しました。

米国経済は、雇用・所得環境の改善と堅調な個人消費及び設備投資の拡大等により回復基調が継続しました。欧州経済は、英国のEU離脱問題等により先行き不透明感があるものの、内需拡大と雇用環境の改善及び輸出拡大により、緩やかな回復を継続しました。中国経済は、積極財政等の政府政策を背景とする堅調な個人消費が下支えとなったものの、企業債務や過剰生産能力の調整が重荷となり、踊り場状態が続きました。新興国経済は、資源価格の持ち直し等により景況感が改善し、緩やかに回復しました。

こうした中、わが国経済は、雇用環境の改善に伴う消費の拡大に加え、堅調な設備投資や欧米・アジア向け輸出の増加等により、緩やかな回復基調が継続しました。

このような環境のもと、豊田通商グループの当第1四半期連結累計期間の収益は自動車生産関連取り扱い増加及びエレクトロニクス関連取り扱い増加等により、前年同四半期連結累計期間を2,032億円（14.8%）上回る1兆5,743億円となりました。

利益につきましては、営業活動に係る利益は収益増加に伴う売上総利益の増加等により、前年同四半期連結累計期間（389億円）を101億円（25.9%）上回る490億円となりました。その結果、四半期利益（親会社の所有者に帰属）は370億円となり、前年同四半期連結累計期間（279億円）を91億円上回りました。

セグメントごとの業績は、次のとおりであります。なお、2017年4月1日より、各商品本部のアフリカ関連ビジネスを統合しアフリカ本部を新設しております。

①金属

インドにおいて、鋼板輸入・保管・加工会社TT Steel Service India Private Ltd.の分工場が2017年5月に操業を開始しました。四半期利益（親会社の所有者に帰属）については、市況の上昇及び需要の増加等により、前年同四半期連結累計期間を17億円（27.0%）上回る81億円となりました。

②グローバル部品・ロジスティクス

ケニアにおいて、Bolloré Transport & Logistics Kenya Limited、日本郵船株式会社と共同で完成車物流会社Bolloré NYK Auto Logistics Limitedを設立し、事業を開始しました。四半期利益（親会社の所有者に帰属）については、海外での自動車部品取り扱い増加等により、前年同四半期連結累計期間を11億円（21.9%）上回る60億円となりました。

③自動車

カンボジアにおいて、トヨタ車総輸入販売代理店TOYOTA (CAMBODIA) CO., LTD. で新車保管・納車前検査・補給部品保管機能を集約した物流センターを2017年5月に建設完了しました。さらなる販売品質強化と顧客満足度向上を目指し、8月に開業予定です。四半期利益（親会社の所有者に帰属）については、単体の輸出及び海外での自動車販売会社の取扱台数増加等により、前年同四半期連結累計期間を17億円（44.2%）上回る54億円となりました。

④機械・エネルギー・プラントプロジェクト

当社グループの株式会社ユーラスエナジーホールディングスにおいて、兵庫県淡路市で建設を進めておりました「ユーラス北淡路ソーラーパーク」が完成し、2017年5月より営業運転を開始しました。四半期利益（親会社の所有者に帰属）については、風力・太陽光発電子会社の利益増加及び前期ガス事業の損失影響等により、前年同四半期連結累計期間を31億円（67.0%）上回る76億円となりました。

⑤化学品・エレクトロニクス

株式会社トーメンエレクトロニクスと株式会社豊通エレクトロニクスの事業を統合し、株式会社ネクスティエレクトロニクスとして2017年4月1日より事業を開始しました。四半期利益（親会社の所有者に帰属）については、エレクトロニクス関連取り扱い増加及び前期一過性損失の影響等により、前年同四半期連結累計期間を40億円（209.0%）上回る58億円となりました。

⑥食料・生活産業

名古屋ささしまライブ24地区で建設を進めていた複合施設「グローバルゲート」が竣工し、2017年4月からオフィス入居を開始、10月には商業施設・ホテルが開業予定です。四半期利益（親会社の所有者に帰属）については、海外穀物インフラ子会社不調及び食品事業再編影響等により、前年同四半期連結累計期間を8億円（67.0%）下回る4億円となりました。

⑦アフリカ

コートジボワールにおいて、CFAO SASとオランダのビール製造販売会社ハイネケン社の合弁で設立したビール製造販売会社BRASSIVOIRE（ブラシボワール）のビール醸造所のグランドオープニングを、2017年4月5日に行いました。四半期利益（親会社の所有者に帰属）については、固定資産処分損益の減少等により、前年同四半期連結累計期間を21億円（58.6%）下回る14億円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の期末残高は、営業活動による増加、投資活動及び財務活動による減少等により4,270億円となり、前連結会計年度末より8億円の増加となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期連結累計期間において、営業活動による資金の増加は370億円（前年同四半期連結累計期間比378億円減少）となりました。これは税引前四半期利益等によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期連結累計期間において、投資活動による資金の減少は274億円（前年同四半期連結累計期間比73億円減少）となりました。これは有形固定資産の取得等によるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第1四半期連結累計期間において、財務活動による資金の減少は120億円（前年同四半期連結累計期間比380億円増加）となりました。これは配当金の支払い等によるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間において、特記すべき事項はありません。